



## 新型コロナウイルスと災害について

このコロナ禍の中、令和2年7月豪雨が起り、その被害は2020年7月14日の時点で死者73名、行方不明者10名、住家被害総数14,836棟と報告されており未だ復旧の目途が立たないところが多数あると聞いております。

弊社の九州の事業所も被害を受けており熊本・福岡の事業所では事務所・車両完全水没や床上浸水した事務所が数か所あります。

幸い従業員は皆無事で、現在は応援体制をとって被害の出た全顧客の状況確認と復旧、そして流された容器等の回収作業にあっております。

比較的我々の住んでいる道東地区は災害の少ない地域と言われてはおりますが、平成28年の台風では、沢山の道路を寸断しJRの線路に被害が出て長期間にわたり通行止めやJR運休が続いたことは記憶に新しいところです。

いつまで長期化するか先が見通せない新型コロナウイルス禍の中、我々もいつ災害に巻き込まれるかわからない状況です。

コロナ禍で最前線で戦っている医療従事者の方と同様に、災害に強いLPガスを取っている私たちの業界は、災害時には最前線に立って避難所等への支援を行わなくてはなりません。

北見市の日赤北海道看護大教授で防災アドバイザーの根本昌宏氏は、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で災害が起きた場合、避難所は間違いなく、今まで経験したことのない運営を強いられます。避難所を増やしたとしても、マンパワーが足りないのは明らか。行政に助けをもらうという感覚では、この国難は乗り越えられない。自分たちでできることを増やす。そのための知識、技術を今から養う必要があると述べられています。

私たちの業界が何をするか明確になっていませんが、災害に備え私たちにできることを考え準備しておくことが必要だと思います。エルピーガス協会網走支部では、同大学の避難所運営演習に参加しており、今後何か新しい情報が得られれば、ご紹介していきます。



ガス放出防止型ホースや調整器への交換は、災害時に有効です。

炊き出しの他、給湯設備やガス衣類乾燥機は避難所で活躍します。